

## 活動名 金沢子ども竹灯り 2018

団体名 子ども竹灯り実行委員会・人間科学部こども学科

代表者名 芥川元喜

### はじめに

金沢子ども竹灯りは、金沢市立馬場小学校校下の地域を中心に行われている活動である。地域の力で子どもたちを育てていこうとする「子ども竹灯り実行委員会」が主体となって行っている事業である。金沢子ども竹灯りに協力する団体は、馬場校下の地域の方や、金沢市立馬場小学校、馬場児童館、東山大通りまちづくり協議会など、多くの協力団体がある。この活動と大学との連携として、活動初期より本学スポーツ学科・池田幸應教授と池田ゼミナールの学生が関わってきていた。今年度からこども学科が引き継ぎ、さらなる地域連携の発展を目指した。こども学科の学生が持つ専門性を活かして参画し、学生は地域連携の在り方をこの体験活動を通して学ぶことができた。

今年の金沢子ども竹灯りのテーマは、こども学科芥川ゼミナールの3年生の学生が発案した『みんなの夢でつながるWA 一和・輪・笑一』である。子どもたちのかけがえない夢が、多くの方々とつながり、そして、叶っていくよう、そんな学生たちの願いが込められている。「金沢子ども竹灯り2018」は、制作交流会と地域交流会があり、今年は10月に2日間の日程で行われた。

### 活動内容

#### 1. 制作交流会（10月7日（日））

制作交流会では、馬場小学校を会場として、ものづくりの活動が行われ、子どもたちがそれぞれのねがう“夢”を込めた竹灯ろうの制作を行った。



写真1 地域の方に竹灯ろうの制作手順を教わる

竹灯ろうに貼りつける絵を描く活動では、講師の指導を受け、指導された内容を生かして、参加した子どもたちの支援と交流を行った。制作交流会当日にはこども学科・馬場ゼミナールの3年生も参加した。



写真2 竹灯ろうの制作をサポートする学生



写真3 子どもたちが制作した竹灯ろう

また、制作交流会では、竹の材質を生かした竹細工の活動も行い、凧作りを行った。この凧作りも地域の方々に学生が手ほどきを受けたのちに、参加した子どもたちに学生が作り方を教えていた。



写真4 子どもと凧作りをする学生



写真5 校庭で風あげ

最後は、馬場小学校体育館で参加した子どもたちと保護者と、学生が企画したレクリエーションで楽しみ、子どもたちは終始、笑顔であった。



写真6 学生企画のレクリエーションの様子

## 2. 地域交流会（10月13日（土））

地域交流会では、前週、制作交流会で、子どもたちが制作した竹灯ろうを馬場校下の町中に配置し、子どもたちが、その竹灯ろうの灯りを目印に、町中のチェックポイントを歩いてまわるポイント・ラリーを実施した。学生たちは、竹灯ろうを町中に事前に設置したり、チェックポイントで町や地域に関わるクイズを出したりする役割を担った。開会式では、金沢市長も参加した。馬場校下は東山茶屋街もあり、日頃から観光客が多く、人通りも多い場所である。学生は、安全面などを配慮しながら竹灯ろうを設置した。ポイント・ラリーが始まると、子どもたちは学生とともに町中を歩き、静かに灯る竹灯ろうを見つけると歓声を上げて喜んでいった。



写真7 中の橋に置かれた竹灯ろう



写真8 東山茶屋街に置かれた竹灯ろう

クイズは、地域・町中に関わるもので、参加した学生は、クイズを子どもたちに出題しながら、地域についての理解を深めていた。

### 成果、結果の考察

地域の方々と連携し、地域の子どものために、活動出来たことは、学生たちの大きな財産となる。また、企画と運営を地域の方々から任されたことも学生たちにとっては自信につながったと考える。

### 今後の課題、展望

金沢子ども竹灯りは、多くの馬場小校下の地域の方々の方により今後も充実した活動として実施されていく予定である。今後も大学、こども学科の学生と地域が連携して取り組んでいく予定である。大学との連携によって生まれる、さらなる子どもたちのつくりあげる竹灯りの輝きをこれからも期待したい。